

2009年6月22日

自動車部品及びアクセサリー



概要

- 香港は豊富な数・種類の自動車部品及びアクセサリーを輸出しているが、それらには、セーフティ・ガラス、バックミラー、ロック、カーシート、ライト、ワイヤー・セット、排気装置、などが含まれている。また、香港企業はカー・オーディオ製品とカー・セキュリティ・システムの主要な製造者でもある。
- 多くの製造業者が自動車部品を **OEM** ベースで生産しているが、大手製造業者の中には自社ブランドとオリジナル・デザイン品を製造しているところもある。再輸出は、自動車部品及びアクセサリーの輸出合計に対して圧倒的多数を占めており、香港の、自動車部品の貿易センター機能及び中継地としての重要性を物語っている。
- 自動車部品のアSEMBラーの場合、基本的に自社製品の対象市場近辺で組み立て工程を行うことが一般的であるため、部品サプライヤーとしてはアSEMBラーの近くに移転することを検討しなければならない。さもなければ、地場市場の新たなサプライヤーにみすみすチャンスを奪われるリスクがあり、そのことで大きなプレッシャーがかかっている。この傾向はアSEMBラーに近い部品サプライヤーほど有利であるということが言える。一方、下層サプライヤーにとっては、より高い品質標準を満たさなければならないというプレッシャーも大きくなっている。

- 消費者は、乗車時の安全性、車の性能、環境への配慮をより重要視するようになってきており、これらの分野は今後、自動車部品サプライヤーにとっても技術革新の焦点となるであろう。また新モデルを、異なる付加価値機能や新たな特徴を導入して設計・構築することを中心戦略とする製造業者も出て来ることが予想される。
- 香港と中国本土間の「経済貿易緊密化協定（CEPA）」のもと、中国本土政府は、香港で製造された全製品を 2006 年 1 月より免税（関税フリー）扱いとすることに同意している。CEPA において、該当する既存の規定がない製造品目の場合は、定められた要件を満たした香港地場製造者による申請を経て然るべき手続を踏めば、非課税の扱いとなる。

業界の特徴

自動車部品及びアクセサリ業界は、香港においては主要産業とは言えないものの、多種多様の部品やアクセサリが、香港から第三国に輸出されている。輸出品目においては、車内エンターテイメントのオーディオ・ビジュアル機器など多岐に亘る消費者用電気製品のうち、カー・ラジオが香港の優位性を確立するアイテムの中で最有力の位置を占めている。また、香港は自動車とオートバイ用の特定の直接部品とアクセサリ類も輸出している。その他にも幅広い種類の自動車部品及びアクセサリを輸出しているが、それらには（空気）タイヤ、セーフティ・ガラス、バックミラー、ロック、カーシート、鉛酸蓄電池、ライト、アラーム、ナビゲーション機器、ワイヤー・セット、カウンターとメーター、換気システム、ピストン式燃焼機関などがあげられる。

香港で自動車産業用のエンジニアリング部品の製造に携わる企業は 2, 3 社のみであるが、その理由は、香港が自動車産業自体を持っていないことと、香港のエンジニアリング部品製造業者のトラッキング記録システムが不十分なため欧米市場への参入が困難であることがあげられる。更に、自動車産業の場合、海外バイヤーのほとんどが既に自身のサプライヤー・ネットワークを確立していることも理由の一つである。

香港の自動車部品及びアクセサリ業界はまだ発展の第一段階にあるが、自動車部品及びアクセサリの製造に興味を持ち新規参入する製造業者が増加しており、より高付加価値な製品を展開するようになってきている。例えば香港の信号機製造者は、製品にスーパー・ブライต์ LED を導入している。またよ

り高級なオーディオとセキュリティ・システムの製造における製造業者間の競争が激しくなっている。

地場製造業者の多くは、小規模の電気工場か金属加工工場であり、そのほとんどが製造工程を中国本土で、或いは中国又は海外企業との合弁会社を中国本土に設立することでコスト削減と本土市場へのアクセスの良さ（近距離）という優位性の確保を図っている。

香港の自動車部品及びアクセサリ業界の輸出実績¹

	2007年		2008年		2009年1月～4月	
	百万香港ドル	前年比%	百万香港ドル	前年比%	百万香港ドル	前年比%
国内輸出	217	+28	66	-70	4	-88
再輸出	13,119	+10	13,469	+3	3,338	-22
中国本土生産品の輸出	9,996	+11	9,772	-2	2,347	-25
輸出合計	13,336	+10	13,535	+2	3,342	-22

市場別	2007年		2008年		2009年1月～4月	
	構成比%	前年比%	構成比%	前年比%	構成比%	前年比%
EU (27)	27.1	+9	23.5	-12	26.0	-14
ドイツ	8.3	+38	6.7	-18	8.4	-11
オランダ	2.8	-23	2.8	+1	4.9	+94
米国	20.8	+2	18.3	-11	18.8	-18
中国本土	22.7	+7	26.2	+17	28.6	-11
日本	9.8	+55	10.4	+8	8.7	-39
アセアン域内	5.3	-3	5.8	+10	5.1	-38

カテゴリー別	2007年		2008年		2009年1月～4月	
	構成比%	前年比%	構成比%	前年比%	構成比%	前年比%
カー・ラジオ・レシ	25.8	-14	20.3	-20	12.4	-57

ーバー						
自動車・オートバイ・病院車用の部品及びアクセサリー	9.9	+14	10.9	+13	11.5	- 27
無線ナビゲーション周辺機器	9.6	+108	9.1	- 4	11.8	+11
自動車用部品及びアクセサリー	8.3	+14	7.8	- 5	6.7	- 40
積算回転計、製造カウンタ、タクシー料金表示機、マイル走行距離計など、速度インジケータ、回転速度計（タコメータ）	7.5	+23	9.4	+27	11.3	+18
その他の防犯アラーム	7.1	+6	7.2	+5	8.1	- 11
ピストン式火花点火内燃機関利用のための部品	6.0	+44	6.5	+11	6.3	- 30
ピストン式圧縮点火内燃機関利用のための部品	2.6	- 14	3.5	+37	6.9	+65
その他のフィラメント電球	2.9	+49	3.2	+10	4.2	+23

¹ 三国間貿易が通常貿易の統計に計上されないことから、これらの数字は必ずしも香港企業によって行われた輸出ビジネスを反映しているとは限らない。また製品グループごとの貿易統計はHS分類システムをベースにしており、SITC分類システムによる数値と異なる場合がある。

香港は様々な種類の自動車部品及びアクセサリーを輸出しており、産業セクター的にも、電気器具・電子工学から金属・プラスチック部品又は機械構成部品に至るまで異なるセクター間を跨っている。それ故、いくつかの製品は、電子工学製品、機械部品として輸出されている可能性もあるが、該当する貿易統計には自動車専用で使用された特定アイテムに対する詳細内訳が存在していない。上記の表は自動車に使用された製品、又は不正確な表記を避けるため自動

車関連製品として計上された貿易統計（HS 分類による）による数値のみを反映している。更に言うと、当該統計数値には、HS コードの分類上の問題により、自動車用に使用されていない製品の数も少量含まれている可能性がある。

香港の自動車部品及びアクセサリーの輸出において顕著なのは再輸出比率の高さであり、輸出合計の **99%**を再輸出が占めている。このことは香港の、自動車部品の貿易センター及び中継基地としての、そして特に中国本土市場開拓における重要性を物語っていると言える。

販売経路

ほとんどの製造者は自動車アSEMBラーまたは自身の部品サプライヤーのために **OEM** ベースの生産を行っている。しかしながら大規模製造業者の中には自身のブランド名とデザインで製造しているところもあり、製品は輸出業者かエージェント向けに輸出するか、又は大量購入してカー・ディーラー、ガソリン・スタンド、販売店向けに製品を流通する海外の輸入業者に直接輸出している。その他の傾向として、製造業者から直接輸入可能な規模を備えた米国の主要なアフター・マーケット・チェーンストア小売業者への輸出が増えている。海外の自動車構成部品サプライヤーとの直取引を進めていくことは、地場製造業者の海外市場参入及び技術標準の向上に明らかに役立つであろう。また、中国のパートナーと合弁企業を立ち上げることも中国市場開拓には有益な選択肢の一つである。

香港企業にとって国際トレード・フェアや展示会に参加することは、最新技術や製品トレンドを知ることができるだけでなく、潜在的なビジネス・パートナーや海外の製造業者と出会う場所ともなる。コネクションを確立し、市場でのビジネス・チャンスを見出すために、自動車部品製造業者は香港貿易発展局（**HKTDC**）主催のトレード・フェア・ミッションに参加して、ラスベガスの「**AAPEX-Automotive Aftermarket Products Expo**」や、フランクフルトの「**Automechanika**」などの国際トレード・フェアを訪問することができる。また **HKTDC** では香港の製造業者向けにスタディー・ミッションも主催しており、新たなビジネス・チャンス確立のために特定の新興市場を訪れることもある。

業界トレンド

世界の自動車業界の主たるプレイヤーは、アクセスの良さとコスト削減のため製造場所を市場に近い地域に移動させており、この傾向は部品サプライヤーの活性化に繋がっている。多くのアジア諸国が自動車産業の発展を経済成長の主要な柱の **1** つと考えている状況下、地域で名の知れた自動車部品サプライヤー

はかなり有利であると見られている。また、中国本土において合弁事業を形成する海外の自動車アSEMBラーの数はますます増加する傾向にある。

同時に、アSEMBラーの傾向としては一流のサプライヤー2～3社に部品調達を依存しており、これらのサプライヤーは製品デザインやイノベーションなどのより大きな役割が期待されている。その結果、これらの一流サプライヤーはそれほど高度でない構成部品の製造を下請けに出すことになり、競争力のない製造業者にもビジネスの機会を提供することに繋がっている。

コストと品質に対するプレッシャーから、デザインと製造工程に高度情報システムを導入する自動車業界が増えている。コンピューターを利用したデザインは多くの業界でもポピュラーな方法となっており、自動車の幾何学的デザインにおいても取り入れられるようになってきている。コンピューター・ベースの製造は、大部分が数値制御機械加工に関連しているが、これも自動車業界全体に導入され始めた。その他に自動車業界に導入された新技術として、高速プロトタイピングとバーチャル・リアリティがあげられる。

自動車部品及びアクセサリーのサプライヤーの中には特定の環境管理システム要件に基づいて業務を行っている業者もあるが、特に **ISO14000** を取得することは一流製造業者によって重視されている項目の一つである。このことは多国籍企業が、よりクリーンなエミッションと省エネによって特徴づけられる環境を考慮した車をプロモーションするだけでなく、世界的な環境への関心の高まりの中、企業として環境にやさしい取り組みをしているというイメージをより前面に打ち出したいという意向によるところが大きい。この観点からも、サプライ・チェーンに対して環境に考慮した製造プロセスを要求する多国籍企業が増えている

CEPA（香港・中国経済貿易緊密化協定）

2005年10月18日、香港及び中国本土政府は、**CEPA** 補足規定 III に基づく香港企業への中国本土市場自由化措置の署名を行った。中国本土は香港で製造された全ての製品を免税（関税フリー）にする措置に同意し、**2006年1月1日**から実施されている。規定手続きによると、該当する既存の **CEPA** 原産地規則がない製造品目の場合は、地元製造者による申請と製造元が定められた要件を満たしていることを条件に然るべき手続を踏めば、非課税となる。

自動車部品とその関連製品の原産地規則に関して、**CEPA**の免税措置による恩恵を享受するには、基本的に主要製造プロセス、免税措置における変更、付加価値内容の必要要件、についてのクライテリアを導入することである。詳細に

ついでには以下のリンクを参照のこと。
http://www.tid.gov.hk/english/cepa/tradegoods/files/mainland_2009.pdf

自動車部品及びアクセサリ業界に影響を及ぼす一般貿易法案

1994年に米国の3大自動車製造工場であるクライスラー、フォード、ゼネラル・モーターズは、世界規模で、特にサプライヤー・ネットワークで業界基準となる「品質システム要求基準 (Quality System Requirements) QS-9000」を確立した。一方、欧州においては国毎に自動車システムを保有しており、例えばドイツのVDA6.1、イタリアのAVSQなどがある。これらの既存基準を統一する試みの中で、主要自動車製造業者がメンバーの「国際自動車特別委員会 (International Automotive Task Force (IATF))」は、「国際標準化機構 (International Organisation for Standardisation (ISO))」に関連して「ISO/TS 16949」を作成した。その結果、次第にQS-9000は使われなくなり、現在はISO/TS 16949が世界基準となってきた。

製品トレンド

先進経済地域の消費者が、乗客の安全性、車の性能、環境への配慮についてより関心を持っている傾向を知ることは業界発展の方向づけとなり、これらの分野は今後、自動車部品サプライヤーによる技術革新の焦点となるであろう。中国などの発展途上国を含む世界中で都市公害について関心が深まるにつれ、大気汚染を減らし燃料効率を上げることが重視されるようになっており、よりエコ・フレンドリーな素材が人工的な素材に替わって利用されるようになってきている。

製品開発は、サプライヤーが性能と外観に関して常に向上を求められているという点において最優先事項となっており、より高度で新規に開発された性能が次々と新たな自動車に組み込まれている。また新モデルを、異なる付加価値機能または独自の特徴を用いて構築することを中心戦略としている製造業者もある。例として、多岐に亘るカーオーディオモデルと、自動車の動きを監視及び管理する高度な電子工学技術があげられるが、実際に、自動車に電子工学の構成部品を使用するケースが増えてきており、エンジン・コントロール、インストルメント、セーフティ関連電気構成部品、ナビゲーション構成部品、セキュリティ構成部品、その他の関連製品などにも広く使われるようになってきている。

昨今、種類の豊富なアクセサリの中で、香港が競争力を持つ高性能カー・オーディオ製品に対する評価が高まっている。ホーム・ステレオ製品と同様に高性能を誇るカー・ラジオとCDプレイヤーも好評を博している。更にリモー

ト・コントロール・アラーム・システムやロック・システムなどのセキュリティ・システムも特に犯罪率の多い国は潜在的な大市場であると見られている。競争の激しい国際自動車業界においては、新車は通常これらの機能を既に内蔵しているため、製造業者の中には、ターゲット顧客をエンド・ユーザーから **OEM** ベースの自動車アSEMBラーに方向転換している業者もいる。

一方、特に若いドライバーを中心にした最近のトレンドとして、外観を自分好みに手を加える改良が挙げられ、自動車部品、合金及びアルミニウム製ホイールとホイール・カバー、シート・カバー、防犯システム、携帯電話ホルダーなどのおしゃれなデザインの製品需要の増加に繋がっている。現代の消費者は快適且つ利便性を求める傾向があり、そのため自動車にも携帯電話に関するものから衛星ナビゲーションなどの高度なアイテムに至るまで多岐に亘るアクセサリが装備されるようになってきている。販売店においても、最近ほどの店のアクセサリ・コーナーにも快適で便利な製品が並び、更には子供用後部座席オーガナイザーや調節可能なカップホルダー、携帯用ハンズフリー付属品などドライブの際に必要なと思われるあらゆる需要に合わせた多種多様の製品が並べられている。

また、自動車製造時のプラスチック使用が増えているが、この傾向は技術向上と価格に対するプレッシャーの増大によって今後も続くものと予想されている。更に、この展開はプラスチック製造業者にとっては、自動車産業市場に活動の場を広げる大きなチャンスを示唆しているとも言え、香港企業は、得意とするプラスチックの製造能力をもってこの展開を優位性に繋げることができるものと見られている。また、自動車製造におけるアルミニウムの使用も増加傾向にあり、**2008** 年までの予想では自動車 **1** 台に使用される平均量は **2000** 年と比較して **20%** 増となっている。